

家庭と家族 — 私のしあわせ —



家族 — 兄弟 —

和田 重良

兄弟（姉妹）というのは不思議なものです。二人以上の子どもがあれば、男ばかりでも女ばかりでも、男女混成でもいろいろな組み合わせがあつて面白いものです。双子や三つ子のケースはよくわかりませんが、それぞれ年令の上下があるわけで、年子からはじまつて、中には10才も12才も違つている子も存在しています。ですから、兄弟間の一番のテーマは「平等感」ということになります。

平等感

たいていの親は複数の子どもに留意しているのは「平等」ということでしょう。でも、どうしても「第一子」に過剰な意識が行つてしまうようです。幼稚園でも学校でも、真つ先に体験するわけですから親の方も初心者なのです。…すべてに。二人目からは扱い馴れていくので「余裕」も出て来ます。でも、これは親の方の課題となるわけですね。

ぼくがもう35年も前に名付けた「長女病」と呼んでいる大問題が起こつてくるわけです。長女に限らず、長男、長女がなかなか自立できないなどはよくありがちです。

三人以上の子どもの真ん中つていう問題や末っ子という問題もあります。しかし、これは兄弟姉妹という与えられた宿題でもありますから助け合つていけるような仲になることが親の役割なのでしようね。

今回は「一人っ子」です。